

# 地域メッシュ統計の特質・沿革

## 1 地域メッシュ統計の特質

地域メッシュ統計とは、緯度・経度に基づき地域を隙間なく網の目（Mesh）の区域に分けて、統計データをそれぞれの区域に編成したものです。

この手法によれば、地域の実態をより詳細に、かつ同一の基準で把握することができるので、統計調査ごとに独自に設定される調査区の区画や面積の相違にとらわれることなく、地域間比較や時系列比較など異なる統計調査の結果を同一の条件で分析できるという特長があり、単一の調査結果からは得られない複合的かつ高度な小地域情報を得ることができます。そこで、国・地方公共団体における都市計画や地域開発、防災・環境計画、公害対策等の企画・立案のほか、市場・商圈分析、学術研究等、官民を問わず広範な分野で利用されています。

このように作成した地域メッシュ統計には、次のような利点があります。

- ① 地域メッシュは、ほぼ同一の大きさ及び形状の区画を単位として区分されているので、地域メッシュ相互間の事象の計量的比較が容易です。
- ② 地域メッシュは、その位置や区画が固定されていることから、市町村などの行政区域の境域変更や地形、地物の変化による調査区の設定変更などの影響を受けることがなく、地域事象の時系列的比較が容易です。
- ③ 任意の地域について、その地域内の地域メッシュのデータを合算することにより、必要な地域のデータを容易に入手できます。
- ④ 地域メッシュは、緯度・経度に基づき区画されたほぼ正方形の形状であることから、位置の表示が明確で簡便にできるので、距離に関連した分析、計算、比較が容易です。

地域メッシュ別に情報を表示する方法（以下「メッシュ法」という。）は、統計データの表示のみにとどまらず、地形、自然環境、行政地域、道路・鉄道、公共施設、文化財などの位置・範囲等を数値化して表示するなど、多くの分野で広まっています。これらの数値情報と統計データを重ね合わせて地域メッシュ別に表示あるいは分析することにより、地域メッシュ統計を更に多角的に利用することができます。

一方、地域メッシュ統計の作成については技術的な難しさもあります。地域メッシュは緯度・経度によって区切られていますが、通常、統計データは不規則な形状・面積の地域単位（調査区）で調査され、集計されています。したがって、このようなデータを地域メッシュの区画に組み替えるには、統計調査地域と地域メッシュとの対応付けを行う必要があります。この組替えには、多くの労力と時間を要しますし、組替え方法によっては、データの精度が低下するおそれがあります。

このような問題の解決のために、総務省統計局では、地域メッシュ統計の編成に当た

って、合理的な編成方法の企画、統計調査地域と地域メッシュの対応付けの工夫など、種々の改善策を図っています。

## 2 地域メッシュ統計の歴史的背景

メッシュ法の考え方は、地理学の分析手法の一つとして開発されたもので、1929年（昭和4年）にフィンランドの地理学者グラニョー（J.G. Granö）が1 km<sup>2</sup>のメッシュを用いて自然事象や社会事象の地域的分析を行った研究論文を発表したのが始まりといわれています。以後、地理学の分野で空間的な分布状況や発展過程の分析・解明の手法として多く用いられてきました。

これを我が国の官庁統計において初めて利用することとなったのは、日本の経済が高度成長下にあった昭和44年です。この年、総理府統計局（現総務省統計局）は、「国土実態総合統計」として首都圏など一部地域を対象に試験的に昭和40年国勢調査、昭和41年事業所統計調査及び昭和43年住宅統計調査に関する地域メッシュ統計を作成しました。その後、国、地方公共団体はもとより民間機関など各方面でメッシュ法による地域情報の収集、整備が進められてきています。

地域メッシュ統計が小地域の統計として必要となってきた背景には、小地域情報に対する需要の増大があります。

第一に、昭和30年代からの経済成長がもたらした人口の都市集中など、社会、経済環境の急速な変化により、国や県を始め市町村レベルにおいても地域格差の是正と均衡のとれた発展が課題となり、これに伴い、民間企業でも市場調査や合理的経営の必要性から現状認識や将来予測の基礎資料として従来よりもきめの細かい地域情報の需要が高まりました。

第二に、昭和28年に町村合併促進法が施行され、多くの市町村で合併が行われた結果、全国の市町村数は昭和25年の10,414（国勢調査時の市町村数。東京都特別区部は1市として計算。）から、合併が一段落した昭和35年には3,511に減少しました。その結果、1市町村当たりの規模が昭和25年の人口約8,000人、面積約36km<sup>2</sup>から、昭和35年には人口約27,000人、面積約107km<sup>2</sup>と3倍強に拡大されました。ところが、統計の集計・表示単位は従前どおり市町村単位のままであったことから、より小さい区域の統計データの必要性が増しました。

第三に、市町村が共同して上下水道や終末処理場などの公共施設を設置するようになり、こうした広域市町村圏の社会基盤整備計画の策定に際しては、従来の市町村単位の統計データでは不十分な場合が多くなりました。

このような変化に対応するため、総務省統計局では、主として人口統計の分野で幾つかの改善を行いました。まず、昭和35年国勢調査から、各市町村において小地域統計が得られるよう調査区別集計を行うこととしました。また、市町村の合併により市部地域

が拡大され、市部・郡部別の地域表章が都市的地域と農村的地域の特質を明瞭に示さなくなっただけ、都市的地域の特質を明らかにする統計上の地域単位として昭和35年国勢調査から「人口集中地区」(Densely Inhabited District：略称DID)を設定し、これを統計表示の地域区分としました。

このように、市町村よりも小さい統計地域区分を設定してきましたが、これらの地域区分による統計データの利用には、少なからず不便が伴います。例えば、国勢調査の調査区は、調査を実施する上で国勢調査員の調査担当区域を明確にするために設定される地域区分であり、大きさが一定でなく、かつ、形状も不規則で調査の都度その境界が変更される場合があります。したがって、同一調査区の統計データを時系列で比較することが困難な場合があるほか、調査区の位置を知るには調査区地図などの調査関係書類が必要で、現地との照合が困難であるなど利用上の不便があります。また、統計調査間で調査区的地域区分が異なる場合は統計データの比較ができません。

そこで、これらの不便を解消する小地域区分として、また、各種の統計データを共通の小地域区分で収集・比較するため、メッシュ法の導入が提案され、様々な検討を経た上で現在の「地域メッシュ」が考案され、昭和48年に行政管理庁（現総務省）により、統一的な作成方法等を定めた「統計に用いる標準地域メッシュおよび標準地域メッシュ・コード」（昭和48年7月12日行政管理庁告示第143号）（以下「告示第143号」という。）として告示されました（19ページに参考として全文掲載）。

この告示第143号による地域メッシュの作成方法は、昭和51年1月に、日本工業規格（JIS）にコード「JIS C 6304」として制定されました。その後、昭和62年3月1日に、「JIS X 0410」へ移行しました。

また、地域メッシュ統計と共に、昭和45年国勢調査から平成2年国勢調査にかけては、都市部の市域内を細分化した「国勢統計区」を設定し、平成7年国勢調査から、市区町村を町丁・字等別に細分化した「町丁・字等別集計」を行っています。

## 用語の解説

### ＜調査区＞

統計調査を実施する際に、統計調査員の担当区域を明確にし、調査の重複・脱漏を防止するために調査区が設定されます。したがって、調査区は統計調査の円滑な遂行を目的として設定されており、これを結果の表示単位として用いることは副次的なものであるといえます。

現在、我が国における各種統計調査の調査区のうち、全国を網羅するものとしては「国勢調査調査区」と「事業所・企業統計調査調査区」があり、それぞれ集計の単位としても用いられています。また、これらの調査区は、前者は世帯を、後者は事業所を調査対象とする各種標本調査の調査区あるいは抽出単位として広く利用されています。

なお、国勢調査については、平成2年国勢調査から「基本単位区」という、よりきめ細かな地域が設定され、各調査区は原則として一つ又は二つ以上の基本単位区をもって構成するよう設定されており、調査区に変わって集計の単位として用いられています。

### ＜基本単位区＞

基本単位区は、国勢調査の調査区設定の基礎単位地域とするとともに、国勢調査結果の集計上の恒久的かつ最小の地域単位として利用するため、平成2年国勢調査から導入されました。基本単位区の区画方法は、街区方式による住居表示を実施している地域については原則として街区を、それ以外の地域については街区に準じた小区画を基本単位区としています。

### 3 地域メッシュ統計の作成状況

国の行政機関が実施している統計調査のうち、その結果を地域メッシュ別に編成して地域メッシュ統計を作成している主なものは、表1のとおりです。

表1－1 地域メッシュ統計の作成状況（総務省統計局）

省庁名	地域メッシュ統計名	統計調査名及び調査年次
総務省統計局	昭和40年国勢調査に関する地域メッシュ統計	昭和40年国勢調査
	昭和45年 //	昭和45年 //
	昭和50年 //	昭和50年 //
	昭和55年 //	昭和55年 //
	昭和60年 //	昭和60年 //
	平成2年 //	平成2年 //
	平成7年 //	平成7年 //
	平成12年 //	平成12年 //
	平成17年 //	平成17年 //
	平成22年 //	平成22年 //
	昭和41年事業所統計調査に関する地域メッシュ統計	昭和41年事業所統計調査
	昭和50年 //	昭和50年 //
	昭和53年 //	昭和53年 //
	昭和56年 //	昭和56年 //
	昭和61年 //	昭和61年 //
	平成3年 //	平成3年 //
	平成8年事業所・企業統計調査に関する地域メッシュ統計	平成8年事業所・企業統計調査
	平成13年事業所・企業統計調査に関する地域メッシュ統計	平成13年事業所・企業統計調査
	平成18年事業所・企業統計調査に関する地域メッシュ統計	平成18年事業所・企業統計調査
	昭和50年国勢調査，昭和50年事業所統計調査のリンクによる地域メッシュ統計	昭和50年国勢調査，昭和50年事業所統計調査
	昭和55年国勢調査，昭和56年事業所統計調査のリンクによる地域メッシュ統計	昭和55年 // ，昭和56年 // 等
	昭和60年国勢調査，昭和61年事業所統計調査等のリンクによる地域メッシュ統計	昭和60年 // ，昭和61年 // 等
	平成2年国勢調査，平成3年事業所統計調査等のリンクによる地域メッシュ統計	平成2年 // ，平成3年 // 等
	平成7年国勢調査，平成8年事業所・企業統計調査等のリンクによる地域メッシュ統計	平成7年国勢調査，平成8年事業所・企業統計調査等
	平成12年国勢調査，平成13年事業所・企業統計調査等のリンクによる地域メッシュ統計	平成12年国勢調査，平成13年事業所・企業統計調査等
	昭和50年・55年国勢調査結果の増減	昭和50年・55年国勢調査
	昭和55年・60年 //	昭和55年・60年 //
	昭和43年住宅統計調査に関する地域メッシュ統計	昭和43年住宅統計調査

注) 事業所・企業統計調査に関する地域メッシュ統計は簡易調査時には作成していません。

**表 1－2 地域メッシュ統計の作成状況（総務省統計局以外）**

省庁名	統計調査名
環境省	自然環境保全基礎調査
農林水産省	世界農林業センサス
経済産業省	工業統計調査
	商業統計調査
国土交通省	宅地利用動向調査（首都圏，近畿圏，中部圏）

※上記についての詳細は，所管省庁にお問い合わせください。

## 4 地域メッシュの区分方法

### (1) 標準地域メッシュ及び標準地域メッシュ・コードの体系

総務省統計局を始め国の行政機関が作成している地域メッシュ統計の主なものは、告示第143号に基づく「標準地域メッシュ」を使用して作成されています。

この告示では、統計に用いる標準地域メッシュを、「基準地域メッシュ」、「分割地域メッシュ」及び「統合地域メッシュ」の3種類と定め、各地域メッシュの区分方法とメッシュ・コードの表示方法を規定しています。

基準地域メッシュは、図1に示す第1次地域区画を基に区画されます。第1次地域区画は、緯度を40分間隔、経度を1度間隔に区分した区画です。これを縦横に8等分した区画が第2次地域区画、さらにこれを縦横に10等分した区画が基準地域メッシュ（第3次地域区画）となります。

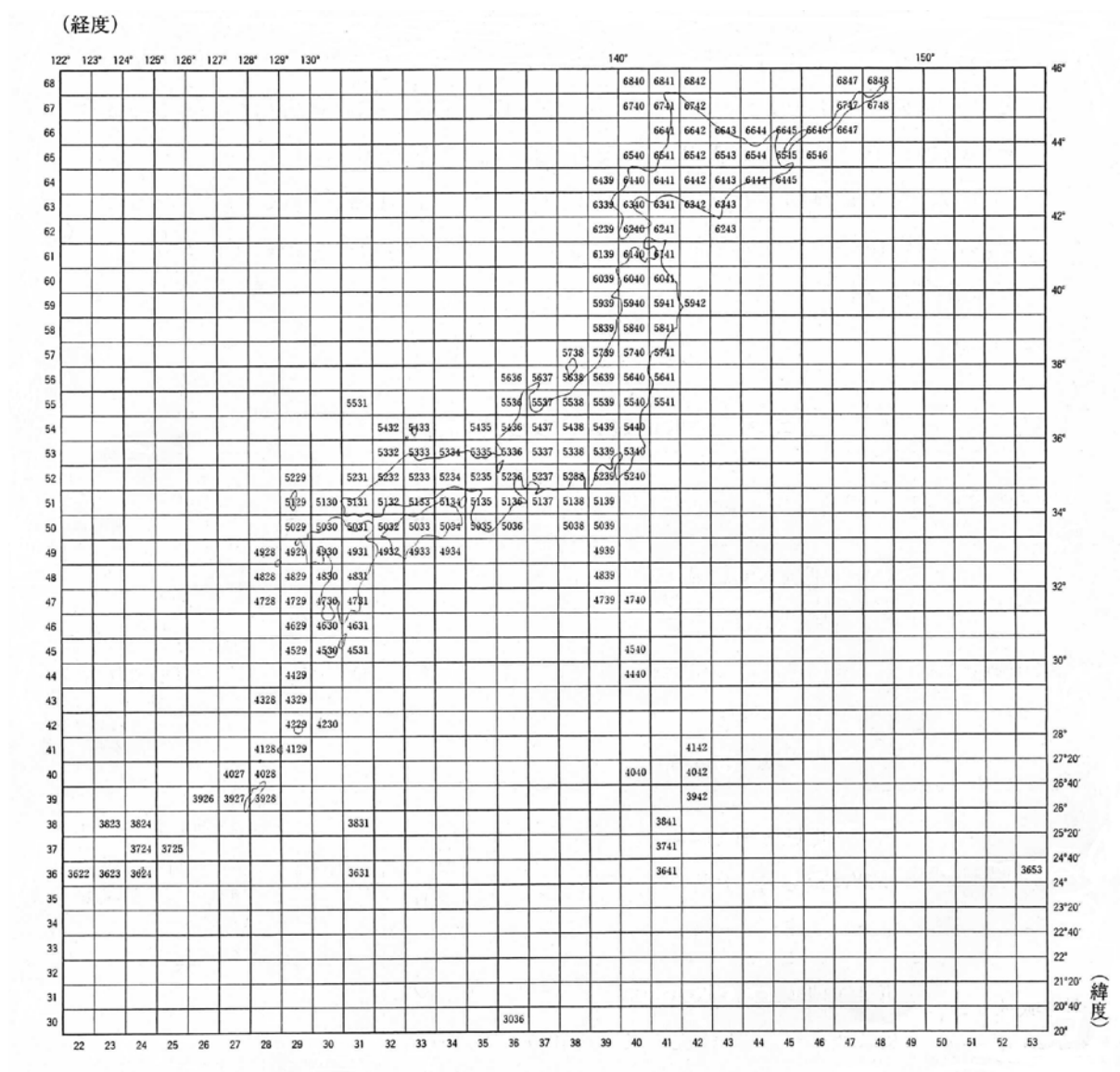
分割地域メッシュは、基準地域メッシュの辺の長さを2分の1、4分の1又は8分の1に等分した区画であり、統合地域メッシュは、基準地域メッシュの辺の長さを2倍、5倍又は10倍した区画です。各地域メッシュの体系と地域メッシュ・コードの関係は、表2のとおりです。

**表2 標準地域メッシュの体系と地域メッシュ・コードの関係**

地 域 区 画		地域メッシュ・コードの例			
	標準地域メッシュ	けた数			
		①②③④	⑤⑥	⑦⑧	⑨⑩⑪
第1次地域区画		5438			
第2次地域区画	統合地域メッシュ {           10倍地域メッシュ 5倍地域メッシュ 2倍地域メッシュ	5438	<u>23</u>		
		5438	23	<u>4</u>	
		5438	23	<u>64</u>	<u>5</u>
第3次地域区画	基準地域メッシュ	5438	23	<u>43</u>	
	分割地域メッシュ {           2分の1地域メッシュ 4分の1地域メッシュ 8分の1地域メッシュ	5438	23	43	<u>1</u>
		5438	23	43	<u>12</u>
		5438	23	43	<u>123</u>

※地域メッシュ・コードの付け方は表4を参照

図1 日本の国土にかかる第1次地域区画（世界測地系）



注) 各区画内の数字は、第1次地域区画の地域メッシュ・コードである。

我が国において標準地域メッシュが設定される範囲は、北緯20度から46度まで、東経122度から154度までの地域で、東端が南鳥島（当該第1次地域区画の地域メッシュ・コードは3653）、西端が与那国島（同3622）、南端が沖の鳥島（同3036）、北端が択捉島（同6848）になります。



(2) 標準地域メッシュの区分方法と地域メッシュ・コードの付け方

ア 基準地域メッシュ

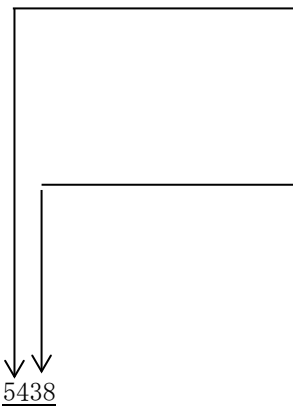
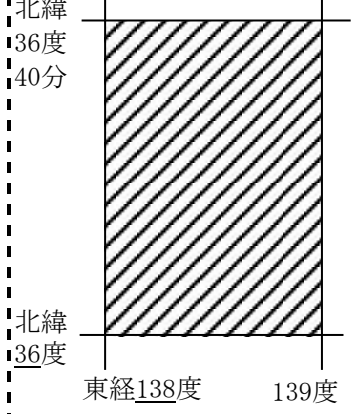
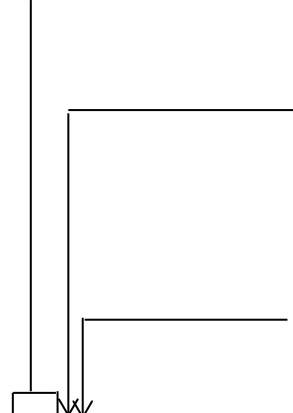
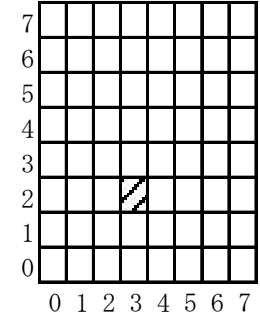
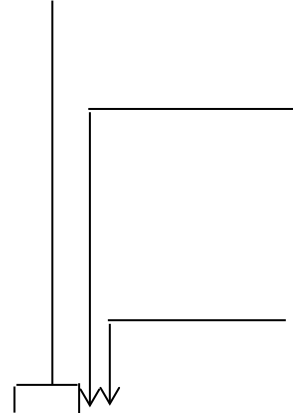
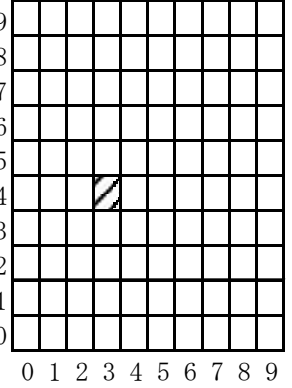
告示第143号では、第1次地域区画を縦横8等分して第2次地域区画を区画し、次いで一つの第2次地域区画を縦横10等分して基準地域メッシュ（第3次地域区画）を区画しており、メッシュ・コードもこの体系に沿って付けられています。その関係をまとめると、表3及び表4のようになります。

なお、第1次地域区画の地域メッシュ・コードは4けたから成り、その上2けたは当該区画の南端緯度を1.5倍した値とし、その下2けたは西端経度の下2けたと同じ値として定義されています。

**表3 基準地域メッシュの区分方法**

区画の種類	区 分 方 法	緯度の 間 隔	経度の 間 隔	一辺の 長 さ	地図との関係
第1次地域区画	全国の地域を偶数緯度及びその間隔(120分)を3等分した緯度における緯線並びに1度ごとの経線とによって分割してできる区域	40分	1度	約80km	20万分の1地勢図(国土地理院発行)の1図葉の区画
第2次地域区画	第1次地域区画を緯線方向及び経線方向に8等分してできる区域	5分	7分 30秒	約10km	2万5千分の1地形図(国土地理院発行)の1図葉の区画
基準地域メッシュ (第3次地域区画)	第2次地域区画を緯線方向及び経線方向に10等分してできる区域	30秒	45秒	約1km	

表 4 基準地域メッシュの地域メッシュ・コードの付け方

区画の種類	桁数	地域メッシュ・コードの例	地域メッシュ・コードの付け方	該当地域（斜線部分）
第1次地域区画	4		南端緯度×1.5（注） $[36 \times 1.5 = 54]$  西端経度の下2けた $[138 \rightarrow 38]$	
第2次地域区画	6		第1次地域区画の地域メッシュ・コード  第1次地域区画の縦の等分区画に南から0～7の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とします。  第1次地域区画の横の等分区画に西から0～7の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とします。	第1次地域区画 （地域メッシュ・コード5438）  
基準地域メッシュ （第3次地域区画）	8		第2次地域区画の地域メッシュ・コード  第2次地域区画の縦の等分区画に南から0～9の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とします。  第2次地域区画の横の等分区画に西から0～9の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とします。	第2次地域区画 （地域メッシュ・コード543823）  

（注） 第1次地域区画の地域メッシュ・コードの上2けたは、赤道から緯度方向に40分間隔で区分してきた場合の、0から始まる一連通し番号を表しています。この通し番号を算出するのに南端緯度を1.5倍するのは、第1次地域区画が緯度40分ごとに区画されるため、緯度の1度が1.5区画分に相当するからです。  $[1 \text{ 度} \div 40 \text{ 分} = 60 \text{ 分} \div 40 \text{ 分} = 1.5]$

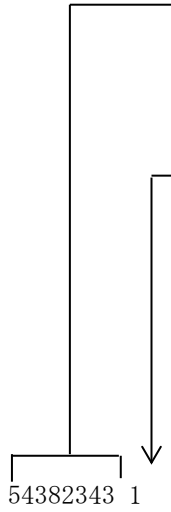
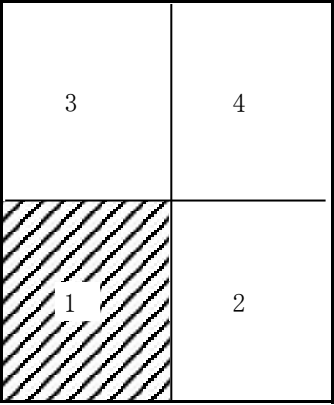
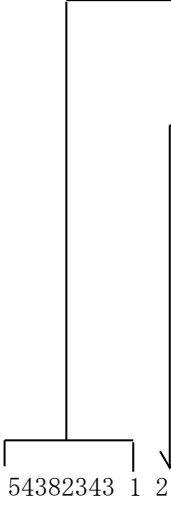
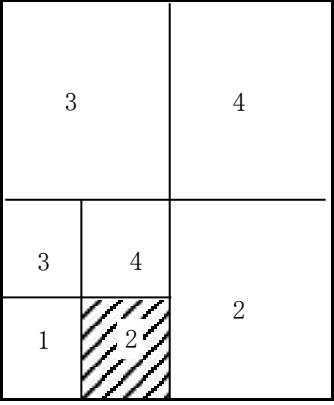
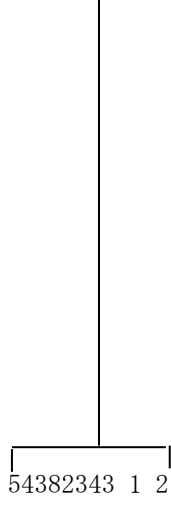
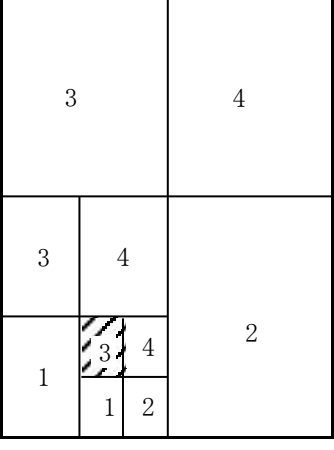
## イ 分割地域メッシュ

分割地域メッシュは、辺の長さが基準地域メッシュの2分の1の地域メッシュ（以下「2分の1地域メッシュ」という。）、4分の1の地域メッシュ（以下「4分の1地域メッシュ」という。）、8分の1の地域メッシュ（以下「8分の1地域メッシュ」という。）の3種類が標準地域メッシュとして制定されています。これらの分割地域メッシュの区分方法及び地域メッシュ・コードの付け方は、表5及び表6のとおりです。

**表5 分割地域メッシュの区分方法**

区画の種類	区 分 方 法	緯度の 間 隔	経度の 間 隔	一辺の 長 さ
2 分の 1 地域メッシュ	基準地域メッシュ（第3次地域区画）を緯線方向，経線方向に2等分してできる区域	15秒	22.5秒	約500m
4 分の 1 地域メッシュ	2 分の 1 地域メッシュを緯線方向，経線方向に2等分してできる区域	7.5秒	11.25秒	約250m
8 分の 1 地域メッシュ	4 分の 1 地域メッシュを緯線方向，経線方向に2等分してできる区域	3.75秒	5.625秒	約125m

表6 分割地域メッシュの地域メッシュ・コードの付け方

区画の種類	桁数	地域メッシュ・コードの例	地域メッシュ・コードの付け方	該当地域（斜線部分）
2分の1地域メッシュ	9		<p>基準地域メッシュ・コード</p> <p>基準地域メッシュの各辺を2等分して得られる4個の区画に、南西側、南東側、北西側、北東側の順に1～4の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とします。</p>	<p>基準地域メッシュ (地域メッシュ・コード 54382343)</p> 
4分の1地域メッシュ	10		<p>2分の1地域メッシュ・コード</p> <p>2分の1地域メッシュの各辺を2等分して得られる4個の区画に、2分の1地域メッシュと同じ順に1～4の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とします。</p>	<p>基準地域メッシュ (地域メッシュ・コード 54382343)</p> 
8分の1地域メッシュ	11		<p>4分の1地域メッシュ・コード</p> <p>4分の1地域メッシュの各辺を2等分して得られる4個の区画に、2分の1地域メッシュと同じ順に1～4の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とします。</p>	<p>基準地域メッシュ (地域メッシュ・コード 54382343)</p> 

## 5 緯度・経度から地域メッシュ・コードを算出する方法

地域メッシュ・コードは、第1次地域区画の南端の緯度と西端の経度及び区画の細分ごとに定められた番号によって構成されています。したがって、任意の地点の地域メッシュ・コードは、その地点の緯度・経度から算出することができます。

### ○ 地域メッシュ・コードの算出式

- ・ 緯度 $\times 60$ 分 $\div 40$ 分 $= p$  余り  $a$        $p$  = 第1次地域区画を示す数字の上2けた
  - ・  $a \div 5$ 分 $= q$  余り  $b$        $q$  = 第2次地域区画を示す数字の上1けた
  - ・  $b \times 60$ 秒 $\div 30$ 秒 $= r$  余り  $x$        $r$  = 第3次地域区画を示す数字の上1けた
  - ・ 経度 $- 100$ 度 $= s$  余り  $c$        $s$  = 第1次地域区画を示す数字の下2けた
  - ・  $c \times 60$ 分 $\div 7$ 分30秒 $= t$  余り  $d$        $t$  = 第2次地域区画を示す数字の下1けた
  - ・  $d \times 60$ 秒 $\div 45$ 秒 $= u$  余り  $y$        $u$  = 第3次地域区画を示す数字の下1けた
- 基準地域メッシュ・コードは  $ps\ qt\ ru$  の順に組み合わせたもの

また、反対に地域メッシュ・コードから当該区域の緯度・経度（南端緯度・西端経度）を算出することもできます。

## 6 地域メッシュの形状と面積

基準地域メッシュの形は一边がほぼ1kmの正方形といわれていますが、実際にはやや横長の長方形となっています。また、基準地域メッシュは地球上のどこにあるかによって大きさが異なります。表7は、地球の形から理論的に計算した県庁所在地の基準地域メッシュの縦横の長さや面積です。

我が国は南北に長い国なので、例えば北海道庁が所在する札幌市の基準地域メッシュの横の長さが1,018mであるのに対し、沖縄県庁が所在する那覇市の基準地域メッシュの横の長さは1,249mで、その差は231mにもなります。これは、地球が球体であることから、同じ経度間隔で区切られる緯度線の長さが高緯度になるほど短くなるために起こる現象です。これに対して、縦の長さは、札幌市の基準地域メッシュの926mに対して、那覇市の基準地域メッシュが923mと、3mしか変わりません。（縦、横の長さは、国土地理院ホームページの測量計算プログラムで算出しました。）

また、基準地域メッシュの面積は約1km<sup>2</sup>といわれますが、このように南北の位置によって縦・横の長さが異なるのでその面積は、札幌市の基準地域メッシュが943,000m<sup>2</sup>、那覇市の基準地域メッシュが1,153,000m<sup>2</sup>と、那覇市の基準地域メッシュの方が札幌市の基準地域メッシュに比べ約1.2倍大きくなります。

このように、地域メッシュは、区分の仕方が同じであっても位置によって大きさが異なり、特に遠距離間で地域メッシュ統計を比較する際には、形状と大きさについて十分注意を払わなければなりません。

図2 位置による地域メッシュの形状と大きさの違い

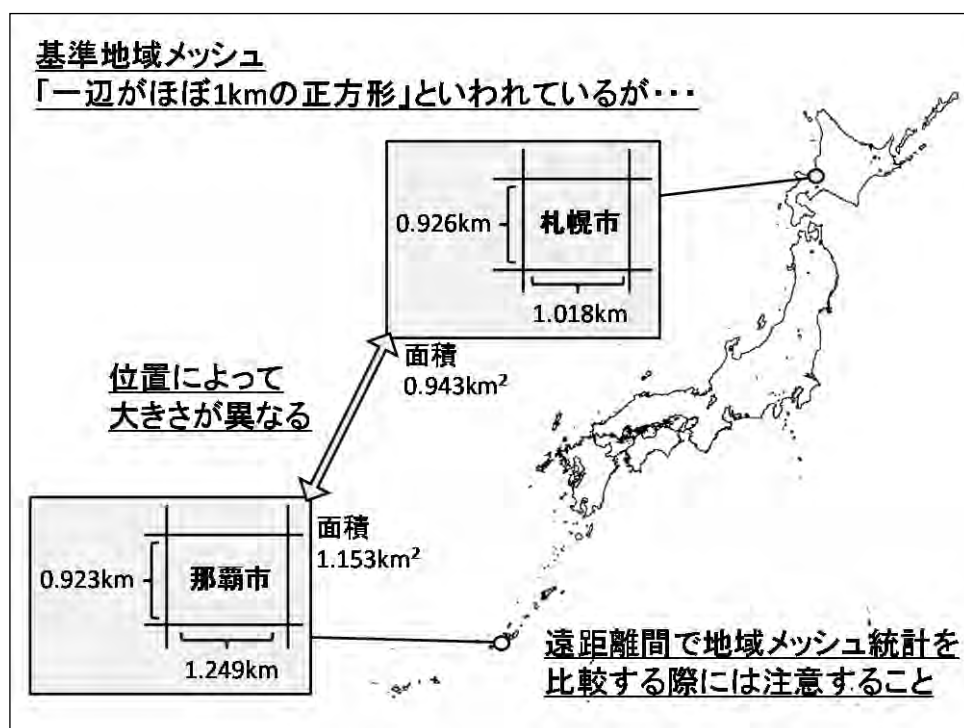


表7 都道府県庁の所在する基準地域メッシュの大きさと面積（世界測地系）

都道府県	都道府県 庁 所 在 都 市 名	都道府県庁本庁舎の所在する基準地域メッシュの区画							当 該 地 域 メッシュを含む 地 形 図 名 (2万5千分の1)
		地域メッシュ ・ コード	左下端の緯度・経度		長 さ		面 積 (km <sup>2</sup> )		
			緯 度 (度, 分, 秒)	経 度 (度, 分, 秒)	縦 (km)	横 (km)			
北 海 道	札 幌 市	6441-42-77	43° 03′ 30″	141° 20′ 15″	0.926	1.018	0.943	札 幌	
青 森 県	青 森 市	6140-15-89	40° 49′ 00″	140° 44′ 15″	0.925	1.055	0.976	青 森 西 部	
岩 手 県	盛 岡 市	5941-41-42	39° 42′ 00″	141° 09′ 00″	0.925	1.072	0.992	盛 岡	
宮 城 県	仙 台 市	5740-36-29	38° 16′ 00″	140° 51′ 45″	0.925	1.094	1.012	仙 台 東 北 部	
秋 田 県	秋 田 市	5940-40-68	39° 43′ 00″	140° 06′ 00″	0.925	1.072	0.992	秋 田 西 部	
山 形 県	山 形 市	5740-22-89	38° 14′ 00″	140° 21′ 45″	0.925	1.094	1.012	山 形 南 部	
福 島 県	福 島 市	5640-53-07	37° 45′ 00″	140° 27′ 45″	0.925	1.102	1.019	福 島 南 部	
茨 城 県	水 戸 市	5440-43-15	36° 20′ 30″	140° 26′ 15″	0.925	1.122	1.038	水 戸	
栃 木 県	宇 都 宮 市	5439-67-70	36° 33′ 30″	139° 52′ 30″	0.925	1.119	1.035	宇 都 宮 東 部	
群 馬 県	前 橋 市	5439-40-64	36° 23′ 00″	139° 03′ 00″	0.925	1.122	1.037	前 橋	
埼 玉 県	さいたま市	5339-65-21	35° 51′ 00″	139° 38′ 15″	0.925	1.129	1.044	浦 和	
千 葉 県	千 葉 市	5340-30-29	35° 36′ 00″	140° 06′ 45″	0.925	1.133	1.047	千 葉 東 部	
東 京 都	新 宿 区	5339-45-25	35° 41′ 00″	139° 41′ 15″	0.925	1.132	1.046	東 京 西 部	
神 奈 川 県	横 浜 市	5339-15-31	35° 26′ 30″	139° 38′ 15″	0.925	1.135	1.049	横 浜 東 部	
新 潟 県	新 潟 市	5639-60-81	37° 54′ 00″	139° 00′ 45″	0.925	1.099	1.017	新 潟 南 部	
富 山 県	富 山 市	5537-01-36	36° 41′ 30″	137° 12′ 00″	0.925	1.117	1.033	富 山	
石 川 県	金 沢 市	5436-75-10	36° 35′ 30″	136° 37′ 30″	0.925	1.119	1.034	栗 崎	
福 井 県	福 井 市	5436-01-77	36° 03′ 30″	136° 12′ 45″	0.925	1.126	1.041	福 井	
山 梨 県	甲 府 市	5338-34-95	35° 39′ 30″	138° 33′ 45″	0.925	1.132	1.047	甲 府	
長 野 県	長 野 市	5438-71-84	36° 39′ 00″	138° 10′ 30″	0.925	1.118	1.034	長 野	
岐 阜 県	岐 阜 市	5336-05-67	35° 23′ 00″	136° 42′ 45″	0.925	1.136	1.050	岐 阜 西 部	
静 岡 県	静 岡 市	5238-33-70	34° 58′ 30″	138° 22′ 30″	0.925	1.141	1.055	静 岡 東 部	
愛 知 県	名 古 屋 市	5236-67-12	35° 10′ 30″	136° 54′ 00″	0.925	1.139	1.053	名 古 屋 北 部	
三 重 県	津 市	5236-04-70	34° 43′ 30″	136° 30′ 00″	0.924	1.145	1.058	津 東 部	
滋 賀 県	大 津 市	5235-46-09	35° 00′ 00″	135° 51′ 45″	0.925	1.141	1.055	京 都 東 北 部	
京 都 府	京 都 市	5235-46-20	35° 01′ 00″	135° 45′ 00″	0.925	1.141	1.055	京 都 東 北 部	
大 阪 府	大 阪 市	5235-04-21	34° 41′ 00″	135° 30′ 45″	0.924	1.145	1.059	大 阪 東 北 部	
兵 庫 県	神 戸 市	5235-01-24	34° 41′ 00″	135° 10′ 30″	0.924	1.145	1.059	神 戸 首 部	
奈 良 県	奈 良 市	5235-06-26	34° 41′ 00″	135° 49′ 30″	0.924	1.145	1.059	奈 良	
和 歌 山 県	和 歌 山 市	5135-21-73	34° 13′ 30″	135° 09′ 45″	0.924	1.152	1.065	和 歌 山	
鳥 取 県	鳥 取 市	5334-21-09	35° 30′ 00″	134° 14′ 15″	0.925	1.134	1.049	鳥 取 北 部	
島 根 県	松 江 市	5333-10-64	35° 28′ 00″	133° 03′ 00″	0.925	1.135	1.049	松 江	
岡 山 県	岡 山 市	5133-77-94	34° 39′ 30″	133° 55′ 30″	0.924	1.146	1.059	岡 山 南 部	
広 島 県	広 島 市	5132-43-76	34° 23′ 30″	132° 27′ 00″	0.924	1.149	1.063	広 島	
山 口 県	山 口 市	5131-23-27	34° 11′ 00″	131° 27′ 45″	0.924	1.152	1.065	山 口	
徳 島 県	徳 島 市	5134-04-74	34° 03′ 30″	134° 33′ 00″	0.924	1.154	1.067	徳 島	
香 川 県	高 松 市	5134-40-03	34° 20′ 00″	134° 02′ 15″	0.924	1.150	1.063	高 松 北 部	
愛 媛 県	松 山 市	5032-66-01	33° 50′ 00″	132° 45′ 45″	0.924	1.157	1.069	松 山 北 部	
高 知 県	高 知 市	5033-24-72	33° 33′ 30″	133° 31′ 30″	0.924	1.161	1.073	高 知	
福 岡 県	福 岡 市	5030-33-23	33° 36′ 00″	130° 24′ 45″	0.924	1.160	1.072	福 岡	
佐 賀 県	佐 賀 市	4930-62-93	33° 14′ 30″	130° 17′ 15″	0.924	1.165	1.077	佐 賀 南 部	
長 崎 県	長 崎 市	4929-06-99	32° 44′ 30″	129° 51′ 45″	0.924	1.172	1.083	長 崎 東 南 部	
熊 本 県	熊 本 市	4930-15-49	32° 47′ 00″	130° 44′ 15″	0.924	1.171	1.082	熊 本	
大 分 県	大 分 市	4931-64-89	33° 14′ 00″	131° 36′ 45″	0.924	1.165	1.077	大 分	
宮 崎 県	宮 崎 市	4731-63-93	31° 54′ 30″	131° 24′ 45″	0.924	1.182	1.092	宮 崎	
鹿 児 島 県	鹿 児 島 市	4730-24-74	31° 33′ 30″	130° 33′ 00″	0.924	1.187	1.097	鹿 児 島 南 部	
沖 縄 県	那 覇 市	3927-25-54	26° 12′ 30″	127° 40′ 30″	0.923	1.249	1.153	那 覇	

注) 1 都道府県本庁舎の位置は、国土地理院が2万5千分の1地形図の上で計測した緯度・経度によっています。

2 各基準地域メッシュの縦・横の長さは、国土地理院ホームページの測量計算プログラムで算出しました。

3 各基準地域メッシュの面積は、縦の長さ×横の長さで算出しました。

## 7 国土にかかる地域メッシュ数

### (1) 国土にかかる地域メッシュ数（世界測地系）

全国土を標準地域メッシュの体系に基づいて区画すると、第1次地域区画で176に区画されます。これを都道府県ごとに、その区域にかかる地域メッシュ数を数えたものが表8です。

### (2) 常住者のいる地域メッシュ数（世界測地系）

表9は、平成22年国勢調査に関する地域メッシュ統計から求めた、全国及び都道府県の常住者のいる（人口のある）地域メッシュ数です。



表 8 都道府県の区域にかかる地域メッシュ数一覧（世界測地系）

（平成22年国勢調査）

都道府県名	第1次地域区画	第2次地域区画	基準地域メッシュ （第3次地域区画）	2分の1地域メッシュ
全 国	176	4, 874	386, 497	1, 515, 129
01 北海道	40	1, 129	91, 409	359, 874
02 青森県	8	153	10, 405	40, 424
03 岩手県	7	193	15, 955	62, 774
04 宮城県	5	112	7, 818	30, 235
05 秋田県	6	157	12, 178	47, 685
06 山形県	6	124	9, 596	37, 715
07 福島県	6	175	13, 844	54, 456
08 茨城県	5	90	6, 126	23, 644
09 栃木県	4	84	6, 456	25, 324
10 群馬県	5	91	6, 474	25, 267
11 埼玉県	4	54	3, 868	15, 035
12 千葉県	5	79	5, 303	20, 502
13 東京都	21	84	2, 644	9, 514
14 神奈川県	4	45	2, 596	9, 848
15 新潟県	7	189	13, 038	50, 763
16 富山県	4	62	4, 392	17, 026
17 石川県	5	78	4, 492	17, 148
18 福井県	4	72	4, 422	16, 938
19 山梨県	3	66	4, 500	17, 526
20 長野県	8	177	13, 541	53, 148
21 岐阜県	6	137	10, 605	41, 590
22 静岡県	7	113	7, 823	30, 382
23 愛知県	6	78	5, 316	20, 515
24 三重県	5	95	6, 050	23, 248
25 滋賀県	4	56	3, 549	13, 501
26 京都府	5	76	4, 806	18, 447
27 大阪府	2	37	2, 078	7, 809
28 兵庫県	6	121	8, 534	33, 092
29 奈良県	5	53	3, 719	14, 422
30 和歌山県	5	75	4, 848	18, 640
31 鳥取県	4	60	3, 634	13, 940
32 島根県	10	117	6, 875	26, 335
33 岡山県	6	97	7, 206	27, 941
34 広島県	4	117	8, 744	33, 662
35 山口県	7	108	6, 590	24, 804
36 徳島県	4	62	4, 184	16, 210
37 香川県	2	46	2, 222	7, 998
38 愛媛県	5	110	6, 209	23, 206
39 高知県	6	108	7, 128	27, 595
40 福岡県	5	85	5, 125	19, 642
41 佐賀県	4	42	2, 542	9, 664
42 長崎県	10	126	5, 434	19, 110
43 熊本県	5	110	7, 480	28, 854
44 大分県	5	96	6, 404	24, 697
45 宮崎県	5	102	7, 539	29, 362
46 鹿児島県	18	205	9, 852	36, 563
47 沖縄県	15	113	2, 900	9, 823

（注） 北方四島及び竹島を含む日本の国土にかかる地域メッシュ数です。  
なお、都道府県の境界にかかる地域メッシュはそれぞれの都道府県ごとに数えています。したがって、全国を一つの地域として数えた地域メッシュ数と、都道府県にかかる地域メッシュ数を足し上げた数値は一致しません。

表9 都道府県別常住者のいる地域メッシュ数一覧(世界測地系)

(平成22年国勢調査)

都道府県名	第1次地域区画	第2次地域区画	基準地域メッシュ (第3次地域区画)	2分の1地域メッシュ
全 国	151	4,310	180,220	477,172
01 北海道	32	825	21,279	45,488
02 青森県	8	130	3,548	8,482
03 岩手県	7	174	6,829	17,205
04 宮城県	5	96	4,700	13,226
05 秋田県	6	123	4,149	9,872
06 山形県	6	98	3,249	7,996
07 福島県	6	151	6,972	18,920
08 茨城県	5	85	5,104	16,584
09 栃木県	4	73	4,114	12,805
10 群馬県	4	74	3,066	8,946
11 埼玉県	4	50	3,078	10,531
12 千葉県	5	75	4,643	15,264
13 東京都	11	55	1,618	5,468
14 神奈川県	3	41	1,857	6,289
15 新潟県	7	150	5,283	13,324
16 富山県	4	51	1,826	5,470
17 石川県	5	66	2,274	5,556
18 福井県	4	57	1,727	4,399
19 山梨県	3	53	1,731	4,624
20 長野県	7	142	5,204	13,861
21 岐阜県	6	112	4,005	10,549
22 静岡県	7	100	4,172	11,679
23 愛知県	5	75	3,968	12,317
24 三重県	4	86	3,080	8,381
25 滋賀県	4	50	1,847	4,995
26 京都府	5	66	2,578	6,357
27 大阪府	2	33	1,536	5,110
28 兵庫県	6	113	5,153	13,854
29 奈良県	5	46	1,632	4,338
30 和歌山県	3	66	2,283	5,619
31 鳥取県	4	51	1,784	4,138
32 島根県	9	99	4,156	9,976
33 岡山県	4	88	4,873	12,744
34 広島県	4	106	5,549	14,208
35 山口県	7	98	4,028	9,828
36 徳島県	4	57	2,204	5,674
37 香川県	2	40	1,609	4,759
38 愛媛県	5	96	3,319	8,024
39 高知県	6	97	3,170	7,222
40 福岡県	3	75	3,827	11,458
41 佐賀県	4	39	1,853	5,247
42 長崎県	9	108	3,298	8,721
43 熊本県	5	102	4,484	11,690
44 大分県	5	90	3,957	9,986
45 宮崎県	5	92	3,488	8,840
46 鹿児島県	16	174	5,740	14,783
47 沖縄県	11	82	1,322	3,333

(注) 都道府県の境界にかかる地域メッシュは、それぞれの都道府県ごとに数えています。したがって、全国を一つの地域として数えた地域メッシュ数と、都道府県にかかる地域メッシュ数を足し上げた数値は一致しません。

統計に用いる標準地域メッシュおよび標準地域メッシュ・コード

[昭和48年7月12日行政管理庁告示第143号]

統計に用いる標準地域メッシュおよび標準地域メッシュ・コードを定めたので、次のとおり告示する。

統計に用いる標準地域メッシュおよび標準地域メッシュ・コード

# 1 標準地域メッシュ

統計に用いる標準地域メッシュは、基準地域メッシュ、基準地域メッシュを分割した地域メッシュ（以下「分割地域メッシュ」という。）および基準地域メッシュを統合した地域メッシュ（以下「統合地域メッシュ」という。）とする。

## (1) 基準地域メッシュ

基準地域メッシュは、次に定める方法により作成する。

ア 全国の地域を1度ごとの経線ならびに偶数緯度およびその間隔を3等分した緯度における緯線とによって分割して第1次地域区画を作る。

イ 第1次地域区画を経線方向および緯線方向に8等分して第2次地域区画を作る。

ウ 第2次地域区画を経線方向および緯線方向に10等分して第3次地域区画を作り、これを基準地域メッシュとする。

## (2) 分割地域メッシュ

分割地域メッシュは、辺の長さが基準地域メッシュの2分の1の地域メッシュ（以下「2分の1地域メッシュ」という。）、4分の1の地域メッシュ（以下「4分の1地域メッシュ」という。）および8分の1の地域メッシュ（以下「8分の1地域メッシュ」という。）とし、その作成方法は、次の表のとおりとする。

名 称	作 成 方 法
2分の1地域メッシュ	基準地域メッシュを経線方向および緯線方向に2等分する。
4分の1地域メッシュ	基準地域メッシュを経線方向および緯線方向に4等分する。
8分の1地域メッシュ	基準地域メッシュを経線方向および緯線方向に8等分する。

## (3) 統合地域メッシュ

統合地域メッシュは、辺の長さが基準地域メッシュの2倍の地域メッシュ（以下「2倍地域メッシュ」という。）、5倍の地域メッシュ（以下「5倍地域メッシュ」という。）および10倍の地域メッシュ（以下「10倍地域メッシュ」という。）とし、その作成方法は、次の表のとおりとする。

名 称	作 成 方 法
2 倍地域メッシュ	第 2 次地域区画を経線方向および緯線方向に 5 等分する。
5 倍地域メッシュ	第 2 次地域区画を経線方向および緯線方向に 2 等分する。
10 倍地域メッシュ	第 2 次地域区画とする。

## 2 標準地域メッシュ・コード

標準地域メッシュのコードは、地域メッシュの種類ごとに、次により定める数字とする。

### (1) 基準地域メッシュのコード

基準地域メッシュのコードは、次に定める第 1 次地域区画、第 2 次地域区画および第 3 次地域区画を示す数字をこの順に組み合わせた 8 けたの数字とする。

ア 第 1 次地域区画を示す数字は、区画の南端緯度を 1.5 倍して得られる度数を示す 2 けたの数字および西端経度を示す数字から 100 を減じて得られる 2 けたの数字をこの順に組み合わせた 4 けたの数字とする。

イ 第 2 次地域区画を示す数字は、第 1 次地域区画を経線方向および緯線方向に 8 等分して得られる各区画に、経線方向については南から、緯線方向については西から、それぞれ 0 から 7 までの数字を付し、これを経線方向に付した数字、緯線方向に付した数字の順に組み合わせた 2 けたの数字とする。

ウ 第 3 次地域区画を示す数字は、第 2 次地域区画を経線方向および緯線方向に 10 等分して得られる各区画に、経線方向については南から、緯線方向については西から、それぞれ 0 から 9 までの数字を付し、これを経線方向に付した数字、緯線方向に付した数字の順に組み合わせた 2 けたの数字とする。

### (2) 分割地域メッシュのコード

分割地域メッシュのコードは、次のとおりとする。

ア 2 分の 1 地域メッシュのコードは、基準地域メッシュを経線方向および緯線方向に 2 等分して得られる各区画に、南西側、南東側、北西側および北東側の順に 1 から 4 までの数字を付してそれぞれの区画を示す数字とし、これを当該基準地域メッシュのコードの次に加えた 9 けたの数字とする。

イ 4 分の 1 地域メッシュのコードは、2 分の 1 地域メッシュを経線方向および緯線方向に 2 等分して得られる各区画に、アと同じ方法により付した数字を 2 分の 1 地域メッシュのコードの次に加えた 10 けたの数字とする。

ウ 8分の1地域メッシュのコードは、4分の1地域メッシュを経線方向および緯線方向に2等分して得られる各区画に、アと同じ方法により付した数字を4分の1地域メッシュのコードの次に加えた11けたの数字とする。

(3) 統合地域メッシュのコード

統合地域メッシュのコードは、次のとおりとする。

ア 2倍地域メッシュのコードは、当該地域メッシュが属する第1次地域区画および第2次地域区画を示す数字をこの順に組み合わせた6けたの数字の次に、当該第2次地域区画を経線方向および緯線方向に5等分して得られる各区画に、経線方向については南から、緯線方向については西から、それぞれ0, 2, 4, 6および8の数字を付し、これを経線方向に付した数字、緯線方向に付した数字の順に組み合わせた数字をそれぞれの区画を示す数字として加え、その次に数字の5を加えた9けたの数字とする。

イ 5倍地域メッシュのコードは、当該地域メッシュが属する第1次地域区画および第2次地域区画を示す数字をこの順に組み合わせた6けたの数字の次に、当該第2次地域区画を経線方向および緯線方向に2等分して得られる各区画に、南西側、南東側、北西側および北東側の順に1から4までの数字を付し、それぞれの区画を示す数字として加えた7けたの数字とする。

ウ 10倍地域メッシュのコードは、当該地域メッシュの属する第1次地域区画および第2次地域区画を示す数字をこの順に組み合わせた6けたの数字とする。

(4) コードの一部の省略

標準地域メッシュ・コードの使用にあたっては、その一部である上位のけたを省略することができる。その際は、省略されたコードが標準地域メッシュ・コードのどの位置に当たるかを明示する必要がある。